

原則

プロセス(過程)の重視

だれもが利用しやすい「まち」や「もの(製品)」、「情報・サービス」等をつくっていくためには、利用者の立場に立った検討を重ねていく必要があります。

例えば、あらかじめ利用者の状況を調査しニーズを把握する、利用者話し合いを重ねながらさらなる使いやすさを追求めるなどのプロセス(過程)が重視されます。



みんなで始めましょう こころのユニバーサルデザイン

みんなが暮らしやすくなるために、県民の一人ひとりがだれかの「困った」に気づいて、助け合いや思いやりの心、マナーなど「心のユニバーサルデザイン」に取り組みましょう。



みんなに使いやすく
配慮された歩道も...

自転車を止めるとき

歩道に自転車を止めると、目の不自由な人や、車いす・ベビーカーを使っている人が通れなくなってしまいます。

乗り物の中で

電車やバスでお年寄りや障害のある人、妊産婦がいらしたら席をゆすりましょう。



町のなかで

段差や階段で困っている人、道に迷っている人など困っている人を見かけたら、一声かけましょう。手助けできることがあるかもしれません。

だれもが
暮らしやす
く豊かなく
まもとを
めざそう



くまもとユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン(UD)とは

年齢、性別、言語や障害の有無等に関係なく、最初からだれもが利用しやすい「まち」や「もの(製品)」、「情報・サービス」などをつくっていくことを意味しています。



4つの視点から

すべての人に **簡単**

できるだけだれもが入手しやすく、わかりやすく、利用しやすいこと。

すべての人に **快適**

できるだけ楽な姿勢で、抵抗や負担を感じたりせずに利用でき、使い勝手がよいこと。

すべての人に **安全**

万一間違った使い方や操作をしても事故につながらず、安心感があること。

すべての人と状況に **柔軟**

それぞれの体型や能力の違い、周りの状況の変化にも制約をうけないこと。

熊本県 政策調整課

〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号

電話 096-383-1111(内線3823)

FAX 096-385-0672

E-mail seisakutousei@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県UDホームページ

<http://ud.pref.kumamoto.jp/>



熊本県

目標

熊本県ではユニバーサルデザインを進め「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現をめざします。

すべての人のための
まちづくり

すべての人のための
もの(製品)づくり

すべての人のための
情報・サービスづくり

すべての人のためという
意識づくり

まちづくり、もの(製品)づくり、情報・サービスづくりという3つの分野と、それらを取り巻く意識づくりについてUDを進めます。

まちづくり

トイレ

いろいろな人が快適に使えるように工夫されています。

車いすに対応した手洗い場、手すり・ベビーベッドが設置されているほか、オストメイト(人工肛門・人工膀胱を使用している人)対応となっています。



熊本県庁

高さの違う水飲み機



熊本県庁

- 背の高さによって選ぶことができます。
- 足もとが空いているので、車いすを使用する人も利用しやすくなっています。

ものづくり

自動販売機

高齢者、車いすを使用している人、子どもなども利用しやすい自動販売機です。



グランメッセ熊本

- お金を入れる場所、ボタン、取出口が真ん中にあるので、体勢を変化させることなく利用できます。
- お金を入れる場所に受け皿が付いているので、簡単に硬貨を入れることができます。



UD陶器

荒尾・玉名地域の窯元では、利用者との対話を繰り返し、「できるだけ誰もが使いやすい陶器」づくりをめざしています。



- ストローカップ
くちの部分にストローを差し込めば、ストローが固定されて飲みやすくなります。

情報・サービスづくり

わかりやすいサイン(案内表示)

照明入りの絵文字、外国語併記のサインを使っています。

- 暗い所や遠い所からでも見やすくなっています。
- 絵文字や日本語、外国語を併記することでわかりやすくなっています。



熊本県庁

高さの違う受付カウンター

- カウンターの下が大きく開いており、車いすを使用している方も利用しやすくなっています。
- いすを置くことで、ゆっくり対応することができます。



熊本県民交流館バリア



意識づくり

UDの考え方が広まり、本当に暮らしやすい社会になるためには、「人ひとりが思いやりや助け合いの心を持つ」意識づくりが大切です。

だれもが暮らしやすく豊かなくまもと



豊かなくまもと